



Camp × us Project

～さあ新たな価値を、ここをキャンプ地として～

In Kyushu University.



背景：（自分の研究との関連性）

「大学生の心理ストレスと幸福感
～言語学の観点から～」

【課題】

・コロナウイルスによる

大学生の心理ストレスが年々増加（日本赤十字社2022年調査）

・大学生の社会観の変化：懸念、不安感 [1]

【解決策】

→Happiness / Well-being を

感じられる言葉・デザインの研究

【手法】

・アンケート調査（ストレス調査）

（九州大学対象・約200名）

・作品の制作（言葉のデザイン）

・フィンランド留学

Health and Well-being from Finnish Nature

[1] 峰尾菜生子「大学生における日本社会に対する社会観の特徴」、青年心理学研究（2017）、28、67-85

社会課題：

・ Well-beingの需要の高まり

『供給が需要に合わせる時代』

（多様な生活ニーズや価値観に
寄り添うことが求められる）』

・ 「ウェルビーイング」

主観的指標と客観的指標の違い：個々の幸福感

「世界幸福度レポート（WHR）2022」

日本54位（前年度56位）...

しかし...社会課題解決ができていない現状

[2] 公益財団法人 福岡アジア都市研究所（URC）

伊都Campusをキャンプ地に！

応募者氏名

小林真優 1S120041P

アイデア：『伊都キャンパスをCamp地に』：一泊二日の宿泊体験型企画の提案

(1)背景

- ・Campの癒しの効果：実体験より（幼少期）
- ・共創学部で履修した「地球環境実習」
 コロナの影響で急遽学外ではなく伊都キャンパス内に変更...
 →これが新たな学び・発見に！（2020年度のみ）

・共創学部「地球環境実習」の生物多様性ゾーン/キャンパス実習
 地理学系・地球科学系の教員指導の下、野外実習を行う（2020年度のみ）

- 生物多様性ゾーン：野生動物の保全対策方法や制作背景を学ぶ
- キャンパス内の植生図を基に、「葉の種類」を実際に触れて観察
- グループでスケッチを取りながら野外活動（伊都キャンパスの地形等）
- 夜「蛍を見に行こう」

- 「キャンパスこもん」の活用：BBQが出来る空間
 : BBQ/交流会...
- イーストゾーン駐車場の夜間の活動
 : キャンドルNight 願い事を書いて飛ばす企画

九州大学伊都キャンパスの
 “強み”
 自然との調和

伊都キャンパス生物多様性保全ゾーンの図



●アイデアの具体的内容

『伊都キャンパスをキャンプ地に』：一泊二日の宿泊型体験企画の提案

対象：九州大学生及び一般の方

期間：夏（8月～9月の長期休暇を想定）

参加費用：検討中（企業・自治体とのコラボを視野に検討：詳細は次ページで）

【宿泊地（案）：テントを張る場所】

・キャンパスこもん

・イースト1号館付近駐車場

・工学部棟周辺の空きスペース

※安全面・使用許可を得た上での想定

目的 ～Vision of "Camp xus project"～

1：自然ベース・地球環境に配慮した方法によるWell-beingを体感すること

2：野生生物の保全・森林保全を通して糸島の自然の豊かさを理解すること

3：誰もが気軽に参加することができ、心の健康を保つマインド形成の機会になること

1日目

13：00～16：00

「森の遠足」 @生物多様性ゾーン

→野生動物の保全方法

→糸島の森林の植生を知る、触れる

17：00～19：00

BBQ&交流 @キャンパスこもん

→農学部附属農場によるお野菜・お肉

→隣のスペースでの交流会・スポーツ

20：00～22：00

案(1)キャンドルナイト@イースト1号館駐車場

→願い事を書いて飛ばす企画

→電気を使わずに、キャンドルの揺らぎに浸る

案(2)夏の蛍鑑賞 @生物多様性ゾーン

「蛍がみれる九州大学伊都キャンパス」

→水源の西側の沢地 蛍の光に癒される夜。

2日目

6：00～

朝散歩&日の出 @農学部棟周辺

朝食：ピクニック形式（コラボする企業・店舗と連携）

解散

①脱炭素・ ③環境食料

取組み：
温室効果ガスを
出さないプログラム内容

→BBQ

：木炭利用でCO₂削減[3]
(樹木はCO₂削減に効果大。
木炭 1 m³で約1トンの二酸化炭素を
固定できる)

：バイオ炭として農業へ
：生ごみ“コンポスト”(QCOM)
[3]NHK千葉放送局「バイオ炭って
なんだ？」(2022)

→キャンドルNight

：電気なし・炎のゆらぎ

→移動手段

：バス、車を一切使わない
＝CO₂排出をゼロに！

②健康

取組み：
①SDGs17項目のうち5項目に貢献

3. すべての人に健康と福祉を
7. エネルギーをみんなに
そしてクリーンに
11. 住み続けられる街づくり
13. 気候変動に具体的な対策を
15. 陸の豊かさを守ろう

自然をベースにした“心の健康”
→生物多様性ゾーン「森の遠足」

：森林の空気に触れる事/新緑を
感じる事/葉の形や木々を知る...
「森林浴」による健康増進効果[4]

[4]武田敦「森林浴の癒しと健康増
進効果について」(2008) p1-p8

④ネクストイシュー

取組み：
“Well-being”に特化した新たな企画

→夜間のキャンパス内を開放

：①キャンドルNight

「1/f ゆらぎ」＝炎が創り出す風
の焚、波のうねりなその自然現象
が心の安定を促す[5]

電子機器から離れ、自然による
光を見つめる穏やかな時間の機
会。

：②夏の蛍鑑賞

(過去にも実施有 2020年度)
「蛍が見れる大学、伊都キャンパス
生物が自ら放つ光＝
グループで鑑賞
自己を見つめなおし、意見共有＝
「主観的指標にあたる幸福感」

[5]山本陽介「ゆらぎ照明のパワースペ
クトルの傾きが人の印象評価に与える
影響」社団法人照明学会(2010)



Camp x us Project



～さあ新たな価値を、ここをキャンプ地として～

●社会へのインパクト・事業化 「Kyushu university 2030」の実現にむけて

【九州大学】

“伊都キャンパス”の社会実用化：“Campus”というresourceを一般化

→知名度の向上・実用頻度の増加＝九州大学への収入増加の期待

→「Kyushu university 2030」総合知という大学独自の取り組みへの注目増加

→九州大学の生物多様性ゾーンの活用

例) 中高生向けの課外活動＝九州大学入学意欲増進・地元への貢献心（福岡県の若者人口増加）

企業・自治体との連携＝環境保全方法の研究・社員の健康増進イベントとして活用

→宿泊施設としての開放

「糸島には宿泊施設が少ない」（糸島市議会委員より）＝Campusを実用化へ



①糸島市観光協会

- ・宿泊施設としての連携
- ・キャンプ地として一般開放
- ・訪日外国人向け

Camp x us project =糸島への関心

②Fukuoka Growth Next

※福岡県、福岡地所、GMO他の運営によるスタートアップ事業

- ・Camp x us project と連携

→新まちづくり案とのコラボを歓迎

③小中高等学校

- ・オープンキャンパス・九大祭と異なる施設の体験
- ・campusを知る+
- 非日常の自然に触れる機会